

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	270101652		
法人名	社会福祉法人明恵会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地 (電話番号)	〒030-0915 青森県青森市小柳1丁目17番18号 (電 話) 017-765-5177		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 3月 2日	評価確定日	平成 21年 4月 10日

【情報提供票より】(平成21年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	5.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	18,000 ~ 24,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月9日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.1 歳	最低 60 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	虹ヶ丘内科クリニック、フラワー歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に位置しているが、車の往来の多い場所である。デイサービスの事業所の裏に立地し、ホーム内では日々の生活を利用者中心に考え、寄り添い、穏かな時間が流れていた。職員は利用者と共にその日の献立や食材を決め、共に支え合い、家庭的で過ごしやすい雰囲気になるよう努めている。また職員の利用者に対する対応に家族を思う心が伺え、信頼関係が出来ていることが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、栄養士等の専門家からの助言を受ける体制について課題であったが、外部評価の結果を職員会議や運営推進会議で話し合い、ホーム外の栄養士の助言を得ながら、利用者の立場に立った取り組みをしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価の意義は周知されており、全職員で取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	会議では日々の取り組みの報告や問題点を提示しているほか、ホームからの一方的な報告にならないよう参加メンバーと意見交換をしたり、アドバイスをもらったりして、サービスの質の向上へつなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族の意見や要望など出しやすい雰囲気作りをし、また苦情受付窓口の明示をしているが、意見は寄せられていない。意見、要望を出しやすい環境作りや啓発活動に期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者が神社祭に参加したり、職員が地域活動に参加したりするなど、地域と関わる機会をもっている。またホームの見学や中学生の体験学習の受け入れなど、地域との連携・協力体制を深めている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを考えたホーム独自の理念であるが、内容に硬さが感じられる。管理者及び職員も硬さを感じると言う意見も聞かれる。	○	地域生活の継続や地域との交流も踏まえ、具体的に誰でもわかりやすい理念を望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に確認出来るように事務室に掲示しているほか、玄関にも掲示している。唱和することでさらに理念を共有し実践に取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の清掃や年1回の町内会で行う防災訓練に参加している。また神社祭りへの利用者参加など地元の人々との交流に努めている。中学生の体験学習や地域で行う救命訓練の場として施設を提供している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を全職員が理解している。月1回勉強会を持ち、話し合い、外部評価の結果を踏まえた改善に取り組んでいる。自己評価票は職員で作成している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に日々の取り組みや問題点を提示、意見交換をして改善に向けた取り組みをしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在市町村から指導を受ける困難ケースはないが、疑問や相談など、直接市の担当者と会って話し合っており、問題が生じた時はすぐ対応できる体制が出来ている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加やホーム内での勉強会を通じて制度の理解が出来ている。支援ケースは1例あったが、現在はない。対応が必要と思われる利用者には、職員が家族と協議し、随時支援に結びつける体制にある。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修やホーム内研修を通じて、全職員が理解を深めている。また、マニュアルが整備され、職員一人ひとりの認識を高めると共に、管理者が職員の言動に注意を払い、虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約や解約について十分な説明を行うとともに、利用者、家族の不安や疑問などを確認し、理解や納得を得ている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の手紙で暮らしぶりを伝え、体調変化はそのつど電話等で連絡をしている。職員の離職や新採用時は1ヶ月前に報告している。金銭管理状況は個別に出納帳に記録し、領収書を添えて面会時等、毎月報告している。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口について明示すると共に周知している。運営推進会議では、話やすい雰囲気作りに努めており、また面会時に家族からの意見や要望を吸い上げる様にしているが意見があまり出ていない。	○	家族会を考える等、意見が出しやすい環境や啓発活動を期待したい。
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「利用者の動揺や混乱を招くことは最小限で」と言う園長の方針のもと異動は行われていない。離職や新採用においても1週間前に話し、不安を少なくするような利用者への配慮が伺える。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には全職員が公平に参加出来るよう配慮されている。参加した職員は施設研修で報告し、全員に伝えている。他に月1回の学習会や、週1回ミニカンファ、自主的に研修参加するなどレベルアップを図っている。管理者は個人研修計画を作成し、さらにレベルアップに取り組んで行く計画である。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び地区のグループホーム協議会に加入し情報交換を行っている。また年1回地域包括支援センターが中心となり、他グループホームや他事業者と連携を図り、サービスの質の向上を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ディサービスの利用状況や家族からの情報、入居まで担当していたケアマネージャからの情報を基に、馴染める様な雰囲気作りや、信頼関係を作り、相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に会話する時間を大切にしている。また、食後の後片付けを利用者と一緒にするなど共に支えあう関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情等から、思いや希望を汲み取っている。また家族や職員からの情報等を通じて、一人ひとりの思い、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族からの情報、希望、職員の意見を取り入れ、利用者本位の介護計画作成となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の状況の変化に応じ、職員や家族との情報を密に取り合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や緊急時の受診に家族が付き添えない場合には、職員が代わりに付き添うなど必要な支援が行われている。利用者の希望に沿って買い物に出かけるなどの支援も行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に医療情報を得て、利用者、家族の希望を取り入れ、受診の支援方法を決定し可能な限り希望に応じ対応している。これまでのかかりつけ医での受診時に必要な資料、情報提供などをして、適切な医療を受けられる支援がされている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの方針を家族やかかりつけ医に説明している。マニュアルも有り、内部研修が行なわれていて対応の方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の声がけなど、日々の関わりにおいて、プライドやプライバシーを損ねる対応や言動にならないよう全職員で気を付け対応している。個人情報保護法を理解しており、個人記録は管理している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に縛られる事無く、個々の体調に合わせて、一人ひとりのペースや希望に沿った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立や食材は、職員と利用者が一緒にチラシを見ながら考えている。利用者の高齢に伴い食事の準備と一緒にすることは出来ないが、食後の後片付けや食器拭きをしてもらうなどして食事を一緒に楽しむようにしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	可能な限り一人ひとりの希望に沿う入浴支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴や力を活かし、洗濯物たたみやモップがけ、食後の後片付け等の役割に積極的に関わってもらっている。また、裁縫を楽しんだり、歌を歌ったり、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は前庭に出て日光浴をしたり、買い物に出かけたり、希望に沿った外出支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や施設内研修で学んでおり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアをしている。職員がかならずホールにあり、目配りしながら安全の確認をしている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署との連携のもとマニュアルにそって夜間を想定して行われている。ホームの非常ベルが鳴った時は協力していただけるようお願いしている。	○	夜勤者一人の時の誘導の限界を踏まえたざという時に備えて、地域の人々や他事業所の協力が得られるよう、日頃から話し合いや訓練を合同で行う取り組みが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェック表を活用し記録している。水分摂取量については概ね把握していて、状態に応じチェックしている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルは作成しており、手洗い、うがいは職員、利用者、面会者、一年を通して徹底して行っている。今後マニュアルの見直しをしていく。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に雛人形を飾るなど、利用者が季節を感じられるように環境を整え、心地よい雰囲気作りの工夫がされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた衣装箱や家族の写真が飾られてあり、安心感を感じる。ホームで準備しているタンスも家庭的で居心地よく過ごせる工夫がある。		

 は、重点項目。